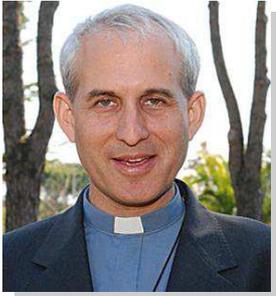


CAGLIERO¹¹

カリエロ 11

サレジオ会宣教ニュース N.70 - 2014年10月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



ドン・ボスコ宣教者の友人の皆さん、

私たちは、カトリック教会で特別に宣教にささげられた月を過ごしています。近年、私たちはシロン、キート、ローマ(総本部と教皇庁立サレジオ大学)でさまざまな宣教養成コースに取り組んでいます。

興味深いことが見受けられます：生涯養成をおろそかにする宣教師はより無知になり、同時に少しずつ初めの熱意、“初めの愛”(黙示録 2・4 参照)を失います。その反対に、生涯養成のために良く、惜しみなく時間を調整できることは、宣

教師の資質を明らかにします。世界中のさまざまな管区で、多くの宣教師が生涯養成に取り組むのを見るのは何とすばらしいことでしょうか！

同時に、養成へのこの取り組みはしばしば、経済的に高くつきます。例えば、宣教師たちが派遣先の人々の言語を本格的に学ぶには、大きな予算をかけなければなりません。そのためにも宣教の連帯はありうるでしょうか？ そうであることを私たちは願います！

より質の高い宣教養成：それは、この生誕 200 周年に、私たちの愛する父ドン・ボスコへの、もう一つの美しい贈りものになるでしょう！

ありがとうございます！

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

総長

**「与えるだけでなく、
自分が与えられる以上のものを、受けることもできるように」**

2014年9月9日、総本部での第145回宣教派遣の宣教師たちとの集いで、総長はサレジオ会における宣教の重要性について、また次のことを強調しました。「常に私たちの拠りどころになるのは、福音、会憲会則です(…)私たちの目は、常に起源に、ドン・ボスコに、最初のサレジオ会員たち、初めの総長たち、最初の宣教師たちに向けられなければなりません。なぜなら私たちはいつもそうであるように、最初の時から、宣教する会なのです。」

総長は強調しました。「皆さんは、人々へ向かうようにという特別な呼びかけを感じたサレジオ会員であり、そのことはサレジオ会の根本そのものに結ばれています。そして私たちは、これからも主が、すべての人への宣教 mission ad gentes へと、多くのサレジオ会員を招き続けてくださると確信します。」

一方、宣教師たちが宣教において果たす役割を理解するための中心的要素を、総長は指摘しました：「皆さんはさまざまな管区に派遣されますが、それは新しい空気、力、支援を多少もたらすためだけではありません；あるいはまた、ある管区の何らかの問題を解決するためでもありません。皆さんは、若者と最も助けを必要とする人々に福音を告げるために遣わされるのです。そして新たな兄弟がある共同体に加わるなら、その兄弟は、自分の知識、文化、召命をもってその共同体を豊かにするのです。」

総長は次のことも強調しました：「今日、“サレジアン”であるということは、社会で最も貧しい、最も助けを必要とする人々の中に共にいるということです。それはただのスローガンに終わるのではなく、現実とならなければなりません(…)それは、すべてのサレジオ会員が若者に向かうために感じる宣教の情熱でなければなりません。ですから、若者、人々、社会にもっと近い会が必要です。このことが、カリスマと使命の継続性を確かなものとするでしょう。」

そして、結びのメッセージとして、総長は愛、献身、仕事に注目しました。「一つ大切なことは、皆さんを迎える人々を愛することです；時に、赴いたところを植民地のように感じている会員を見かけることがあります。私はそれを、アフリカで見ました。アフリカの宣教師の中には、権力を持った白人のヨーロッパ人であるかのように感じている人々がいます。(…)勤められるのは、仕事と節制です。そして仕事と言うとき、それは急いで何かをこなすことではありません；皆さんが遣わされるのは、与えるためだけでなく、頂くためでもあることを忘れないください。そして時には、与える以上のものを頂くこともあるのだということを。」





私

の宣教の召命は、修練期に始まりました。2009年の宣教への呼びかけを通してです。しかし、宣教に自分をささげようと思うようになったのは、ポスト・ノビスの3年間の体験がきっかけでした。まず、トーゴのロメの危険なスラムで、ガーナからの移民の漁師の子どもたちと過ごした2年間の使徒職；それから1年目の夏、ベニンのポルト・ノヴォのストリート・チルドレンとの体験；2年目にコートジボワールのドゥエコエでの戦争難民との出会い。これらの体験は、シエラレオネで体験したことによってより強められました。シエラレオネには、宣教召命の識別を視野に宣教を経験するため、管区長によって1年間の実地課程を過ごすよう派遣されたのです。私は志願者のアシステンテを務め、また貧しい子どもや若者たちの中で働きました。子どもたちの大多数はイスラム教徒でした。そのほか、学校、オ

ラトリオ、教会などでも働きました。新たに英語圏での司牧のやり方を経験し、自分の出身のフランス語圏とは異なる新しい生活のリズムに従うことができ、素晴らしい体験でした。私にとって重要な鍵となったのは、この年、宣教師として自分をささげたいと思う人々に仕えていると、実感できたことでした。こうして、1年間の識別の後、会によって遣わされる場所ならどこでも、若者と貧しい子どもたちに仕えるため全面的に自分をささげようと、躊躇なく、宣教師として派遣してほしいと大胆に願い出しました。

確かに、私の国も、管区も、宣教師を必要としています。でも私は、自分の「はい」が、私の奉仕が役に立つと思われるところならどこでも、若者と子どもたちに届くように願ったのです。私にとり、新宣教師研修コースとカリスマ発祥の地への巡礼は、養成のためのかけがえのない機会、源泉に立ち帰り、宣教派遣に備える時となりました。こうしてコース修了後まもなく、2013年、私は総長パスクアーレ・チャーベス神父に派遣され、熱意に満ちて南スーダンに到着しました。

この新しい宣教地で、私は貧しい人々と共に貧しく生活しています。お金を使わず、簡素な食事をし、人々とほとんど同じように暮らしています。サレジオ会員、キリスト者、人間としての観点から、非常に困難な、想像もしなかったような状況も経験しました。しかし、そのような経験もサレジオ会員として成長する機会となり、残りの初期養成期間、またサレジオ会員としての歩みのために、いくつかの決意をする助けになりました。



トーゴ出身、南スーダンの宣教師
ユベール・ズービヌ神学生



サレジオの宣教の聖性のあかし

「憂鬱に注意しなさい。いつもしかめ面だったり、憂鬱そうにしている人は、その人の霊魂あるいは神経に何か問題があることを表しています。喜びと幸せが皆さんを離れることがないように。皆さんは、苦勞の多い人生を歩む人々の中で働くことになります。その人たちを慰め、幸せにしなければなりません。皆さんの聖性が落ち着いた、明るい、幸せなものでありますように。」(1932年10月22日)

サレジオ会員、ポーランド系移民のための「キリストの会」創立者
神の僕 アウグスト・フロン枢機卿(1881年 - 1948年)のあいさつより



サレジオ会の宣教の意向

米国のラテン・アメリカからの移民の司牧活動のために

法的身分のない人、教育やカテケジスを受けられない人を助け、飢えた人、家のない人に連帯を示すサレジオ会員や信徒協働者のさまざまな奉仕を通して、移民の人々が神の愛を見いだすことができますように。

アメリカ合衆国には、ラテン・アメリカ出身の人々が4千万人以上暮らし、そのうち千百万人以上が不法滞在者です。彼らは仕事において搾取され、不安定な状況に暮らしています。多くのラテン・アメリカ系移民が、十分な司牧を受けられず、カトリック教会を離れてしまいます。2011年、サレジオ会インターアメリカ地域は移民のための司牧プロジェクトを立ち上げました。アメリカ大陸の管区間のチームワークを発展させ、米国の2つの管区(米国東、米国西)ですすでに行われている事業を強化するためです。

